

小児科

● スタッフ（平成28年10月1日現在）

診療科長 河島 尚志
 医局長 春原 大介
 外来医長 山中 岳
 病棟医長 柏木 保代

医師数 常勤 29名
 非常勤 13名

● 診療科の特色・診療対象疾患

当科は、精神・神経疾患、感染・免疫疾患、アレルギー疾患、消化器疾患、代謝・内分泌疾患、腎・泌尿器疾患、循環器疾患、遺伝性疾患、新生児疾患など小児科疾患全般に対して、各分野の専門医が最新の知見をもとに外来および病棟での診療を行っている。外来部門は、一般外来はもちろん疾患分野ごとの専門外来を設け、専門的な診療体制を構築している。病棟部門では、外来では治療困難な疾患の精査・治療だけでなく、各種負荷試験や、鎮静下での内視鏡検査などを短期入院で実施するなど様々な患者ニーズに応えることができるよう、フレキシブルな入院対応を行っている。さらに、一般小児病棟とは別病棟にある新生児集中治療室は地域周産期医療センターとして近隣産科施設からの母体搬送や新生児搬送に対応している。

● 診療体制と実績

1) 外来診療体制と実績

外来は、本館2階にあり、午前・午後ともに予約外来・各種専門外来を4～6診体制で行っている。2016年4月1日～2017年3月31日の診療実績は、新患3,166名、外来受診件数20,227件であった（病院医事課データ）。専門外来は、神経外来、感染・免疫外来、腎・泌尿器外来、代謝・内分泌外来、消化器外来、アレルギー外来、循環器外来、呼吸器外来、発達外来、予防接種外来に加えて、近年ニーズが増加傾向にある小児頭痛外来や、思春期外来、起立性調節障害専門外来、夜尿症外来を設立し各分野の専門医による診療を行っている。当院遺伝診療センターにも遺伝カウンセラーの資格を持つ医師を派遣し、連携をとり遺伝疾患の小児患者をチーム医療で支えていく体制を構築している。さらに、当院口唇口蓋裂センターの紹介窓口として口唇口蓋裂の児の発達フォロー並びに他科受診のコーディネートをを行っている。また、夜間・休日は時間外外来やERで、小児救急患者や重症患者（三次対応可）の受け入れを行っている。

2) 入院診療体制と実績

当科の病棟は一般小児病棟（本館10階西病棟 54床）と地域周産期医療センター（本館10階東病棟 NICU 12床、GCU 14床）があり、一般小児病棟は4グループで各専門分野別に診療にあっている。2016年4月1日～2017年3月31日の小児科入院患者数は1394件（周

産期医療センターを除く）である。近年の予防接種や、外来における慢性疾患のコントロールの充実により、以前に比べて重症感染症や、重症の気管支喘息患者の入院は減少傾向にあり、アレルギー疾患や内分泌疾患の負荷試験や、鎮静下における消化管内視鏡検査、喉頭・気管支内視鏡検査、MRI検査、脳波検査などの検査入院が増えている傾向にある。さらには、近赤外線分光法機器を用いた起立性調節障害の診断や、カプセル内視鏡による小腸および大腸の画像検査など先端医療を取り入れ診療を行っている。

平成28年度小児科病棟入院疾患内訳

